

令和6年度第2回鮫川村まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者会議会議録

日時:令和6年8月20日(火)

午後2時55分～午後4時20分

場所:鮫川村役場2階正庁

進行:村づくり推進室長

1. 開会

定刻より早いですが、ご出席の皆様が揃いましたので、ただ今より、令和6年度第2回鮫川村まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者会議を始めさせていただきます。

本日はご多用の折にもかかわらず、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

会議に先立ちまして、本会議委員の皆様の出席状況をお伝えします。

今回、欠席の連絡を受けた7名の委員のうち2名から意見書の提出がありましたので、出席者として取り扱いますので、10名出席となります。

鮫川村まち・ひと・しごと創生有識者会議設置要綱第6条の規定に基づき、委員の過半数が出席しております。よって、本会議は成立しておりますことをご報告いたします。

次にあいさつですが、本来であれば宗田村長より挨拶するところですが、所用により本日出席できませんので、副村長の鈴木大介より、ご挨拶申し上げます。

2. あいさつ 鮫川村 副村長 鈴木 大介

みなさんこんにちは。本日はお忙しい中、ご出席いただき誠にありがとうございます。前回の有識者会議が7月25日であり、約1か月で第2回目を開催することとなりました。前回は令和5年度の事業評価の内容がメインでありましたが、今回は現在作成中の新しい総合戦略の素案について新しく追加されました内容及びパブリックコメントや委員の皆様から提出いただいた意見を含め、改めて総合戦略をどのようにしていくべきか、活発に検討していただきたいと思っております。

委員の皆様からのご支援、ご協力により、より良いものをつくり上げたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。

3. 議事

それでは、議事に移ります。

ここからは、会長が議長となり、議事の進行をお願いいたしますが、本日会長欠席のため、副会長をお願いいたします。

進行:矢吹靖弘委員

【議長(副会長)】

前回の拙い進行にもご協力いただき、ありがとうございました。本日は、前回からの素案の修正点や有識者からの意見もあります。スムーズな進行を目指しますので、ご協力よろしくお願いたします。

(1)第3期デジタル田園都市国家構想総合戦略の素案について

①素案について(資料1)

事務局にて内容を説明。

【議長(副会長)】

事務局より前回の意見等を踏まえ、修正や追加のあった内容を説明していただいた。これに対し、質問のある方はいるか。

⇒異議なし(全員了承)

②パブリックコメントの結果について(資料2)

事務局にて内容を読み上げ。

【議長(副会長)】

清水先生からの意見であった。これに対し、事務局からは素案の内容を修正するような意見ではなかったため、素案の修正等は必要なしということでよろしいか。

⇒異議なし(全員了承)

③有識者意見について(資料3)

事務局にて内容を読み上げ。

【議長(副会長)】

総合戦略の8つの将来像の中で、柱となる部分をより分かりやすく、住民に伝わりやすくした方が良いのではないかとの意見があった。2名の委員からの意見の内容を含め、再度素案の内容を確認し、皆様からの意見を伺いたい。

【阿久津委員】

村内の耕作放棄地、遊休農地の数は増えてきている。里山景観の維持等の表記があるが、農業の担い手も不足しているため、里山景観等について謳うのであれば、遊休農地等の改善に早急に取り組む必要があると考える。

【澤村委員】

耕作放棄地を農業法人へ貸付し、維持してもらう方が良いのではないか。新たな担い手を探すより、法人等を支援していく方が、村としても耕作放棄地が解消され Win-Win な関係となると思う。

里山の景観維持という表現は、アバウトであり、そこには山の管理も含まれると思うが、山の手入れを個人で行うことは難しい。これに対し、村から何か支援等はあるか。

【副村長】

村としては、中山間直接支払制度はあるが、個人での景観維持を支援するものはない。国策はあるが、財源にも限りがあるため、全てに対応することは難しい。そこでどうしていくかを考える必要がある。まずは住民や担い手の減少が問題。担い手をどう育成していくかが重要である。取り組むお金はあっても、支える人がいないのでは、せっかく国の支援があっても意味がない。

村としてどうしていくか、有識者の皆様からもご意見をいただきたい。

人を確保するひとつの方法は、やはり関係人口にあると考える。村の農地は小さく、大規模農業を行うには難しい。しかし、農業に興味があり、農地を持たない人にとっては、取り組みやすい場所となる。そう言ったことにより少しでも担い手を増やしていければと考えている。

【議長(副会長)】

意見書にもある通り、村民に伝えやすくということで、中心となる柱を決めていくにも、早急に進める必要があるのは、農地や里山の問題であることがわかる。

【松崎委員】

人口減少等、気にかけている問題。村だけでなく、県南地区でも休耕田が多くなっている中、村でプロジェクト等を立上げ、住民が景観を守れるような対策をして欲しい。花が好きな方が多いと思うことから、花を植える活動を通して、雰囲気作りや外から来た人も寂しく感じないような村づくりはどうだろうか。

これまで、まめで達者な村づくりを通して、流れが出来ているため、そこをよりPRすることも必要。土台は十分にすでにあるので充実させる形をとって欲しい。

小中一貫校に向けた、新たな教育づくりが始まっていると聞いた。少子高齢化で子どもの数も減少していることで、どう子ども達が成長していくか心配していたが、そういった話を聞き、安心や期待をしている。

関係人口という話があったが、子ども達から村に関係してくれる人を引っ張れるような村を想像している。室内遊具場や充実した公園を整備するのも良い。村の道路は整備されているため、その利点を生かし、子どもからお年寄りまで楽しめるものが理想で、賑やかになっていくと思う。

【佐藤委員】

手まめ館で仕事をしているが、買い物に来る方の6、7割が村外の方。村外の方に村に来た理由を聞くと「自然がいっぱい良い」との回答が多い。しかし、時期により来村人数に差があり、特に紅葉や花の時期には多くなる。オールシーズンで人を呼べる景観を村づくりの中に入れても良いのでは。販売している野菜も村内で作られているため、消費者も安心・安全。それを求めて山奥でも来てくれる。特に「味噌」が好調である。根強いファンが口コミしてくれている。これを大事に守りたい。

皆が同じところを向いて、賛同して、同じことをするのが良く、それが関係人口に繋がっていくと思う。

【議長(副会長)】

事業としてよりボランティアでやれることも多いように感じる。

【副村長】

村の循環型農業に非常に賛同してくれる方も多い。ここに賛同してくれている人を、村の関係人口として外にも広めていきたい。計画をつくるだけでなく、いかに回していくか、そのために一緒にやることで、共感を得ることが大事。

【石井委員】

総合戦略のビジョンを村民全員に理解してもらう状況づくりが必要。施策が何に繋がるかわかれば、村民も自分たちが村づくりに参加している実感が得られると思う。出来るだけ多くの人が理解してくれるようにし、みんなで村を作っている実感が得られれば良い。

【副村長】

総合戦略は村の事業全般が掲載されており、スケールが大きいので、自分の生活に直結している実感がもてない。手まめ館等、村の事業がどの計画に基づいて運営しているか示していければ、住民の皆さんも少し実感が持てると思う。

【藤元委員】

8つの将来像を見て、ワクワクすると感じる。祭りの内容は、自分の幼少期を思い出す。

看護学生との交流を通し、自分たちだけでどうにかできることは限られてきていると改めて感じた。村では高齢化が進み、高齢世帯独居もいるが、村に人がいないならば、外からの若い人を呼ぶのも良いと考える。今回の看護学生との交流がとても経験となった。

【窪木委員】

自分もUターンしてきたが、当初は人との関りを面倒に感じていた。住んでいるうちに、人との関わりを自分から求めるようになっていった。イベント等を開催しているが、人数の少ない分、人とのつながりが濃いと感じる。その交流に若い人や子ども達をもっと巻き込みたいと考えている。若い人は現状を維持する考え方になっているが、先輩である自分たちが、村の達人として、生活を楽しみ伝えていく必要がある。

【副村長】

村に来てから誰でも主役になれる可能性があることが良いところだと感じた。お祭りなどでも、村では自分が動かないと回らないため、みんなが主役となれる状況である。村民のみなさんが自分で村の良いところをもっと認識してもらい、外に自慢してもらうことが重要であると考えている。

【阿久津委員】

11ページに小・中・高との表記があり、高校はないがどこの高校か。

【事務局】

近隣市町村の高校のことを表現している。

【阿久津委員】

ゴルフの蛭田みなみ選手は全国で活躍し、後援会もある。みなみ選手を通して、村に興味を持ってくれる人もいるため、そこへのアプローチをしても良いと思う。

【議長(副会長)】

多数の意見が出ました。その他意見は無いようですので、素案に対する有識者の意見はこれでよろしいでしょうか？

⇒異議なし(全員了承)

(2)答申書(案)について

事務局より説明を行った。

⇒異議なし(全員了承)

4. その他

【事務局】

素案の7ページの基本理念について、有識者会議にて決定するか、村長決定とするか、意見を伺いたい。

【松崎委員】

言葉として「つながり」「こころ豊か」というワードは使って欲しい。

⇒1番を希望する意見が多かったため、1番の案をベースにし、村長へも意見を伺うとした。

5. 閉会

以上、この会議録が正確であることを証します。

令和 6年 8月 28日

議長 矢吹 靖弘

会議録署名人 藤元 良子

会議録署名人 窪木 浩一

